

公民館区等を単位とした コミュニティ振興例

参考地域：富岡市・沼田市・渋川市

公民館（区）が
コミュニティ振興の拠点と
なりうる理由

公民館・社会教育はそもそも……

- 公民館をつくる3つの理由

(公民館発祥時の文部省社会教育課長・寺中作雄の説明=寺中構想)

1. 民主主義を我がものとし、平和主義を身につけた習性とするまでにわれわれ自身を訓練するため
2. 豊かな教養を身につけた文化の香り高い人格をつくるため
3. 身につけた教養と民主主義的な方法によって
郷土に産業を興し、郷土の政治を立て直し、郷土の生活を豊かにするため

- ユネスコによる公民館の評価

日本の社会教育を

Adult Education and Social Work (成人教育並びに社会活動) と翻訳

- 日本ユネスコ協会連盟は、2003年からの「国際識字の10年」を契機に公民館活動を手本とした「世界寺子屋運動」を展開

- 公民館の事業（社会教育法第22条）

公民館は、第20条の目的達成のために、おおむね、左の事業を行う。

1. 定期講座を開設すること。
2. 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。
3. 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
4. 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
5. 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
6. その他施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。

- 事業開催の場として、学校、大学等に協力を求めることも可能
（第45～48条）

公民館に求められる現代的な役割

- 地域住民の依り所（“おらが学校”そのもの）
公民館設置が首長部局に移っても社会教育法の理念は体现できる
（文部省自身がそれを認め推奨する法改正へ → 第9次地方分権一括法）
- 可能な限り地域住民主体で集会・事業を実施し公民館は連絡事務を担う
※住民主体での集会・事業実施の研修も公民館事業（予算化を考えよう）
- 地域協働の拠点
協働はPartnershipの訳で、元々は企業と市民・行政の事業協調を言うが
日本では、市民と行政による事業協調、Publicの再建・創造を指す
- 住民・市町村・地域企業の協働が日々具現化できるのは地域（小学校区等）
- 地域ぐるみでのSDGs推進の拠点
- 地域福祉推進、環境負荷低減、地域産業振興、防災・防犯はまちづくりの柱

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

No one will be left behind



経済、
社会、
環境、
3側面をバランスよく、
統合的に達成

構造=構成にも注目
ガバナンスを土台に
環境、社会、経済と
積み上げる



経済、社会、環境を3層構造で示した図

少し視点を変えて、あるいは広げて

- 潮目の変化

右肩上がりから人口減少・少子高齢化へ（実際は、地方ではずいぶん前から）

- 地域創生で言われていること

地域資産を活かした集客イベントを重ねて話題性を高め、
交流・関係人口を増やせば、雇用の場は広がり移住・定住も見え、
人口減少・少子化にも歯止めがかかる。

地方が衰退するのは発信力がないから。

- 実際に起きていること

発信もイベントも交流・関係人口も増えているが、

人口減少・少子高齢化はむしろ加速化、

就労人口・定住人口は増えるどころか減少。加えて孤世帯が増えている。

考えなければならないこと、あるいは地区で進めるべきこと

- 地域資産を地域の生活と産業の基盤とする恒常的な意見交換会が必要
まずは、地域資産と言われるものを、いわゆる観光資源としてではなく、
地域に人々が暮らしあう基盤、生活と産業の資源として見直そう!
 - 住民として、事業者として関わり合える環を作り出すこと重要
一人ひとりが持つ様々な顔を見直し、つなぐ環を物やお金が回る環に!
環境負荷を減らす工夫、地域全体で子育てや介護を支える工夫を!
 - それらを探す方法こそ社会教育
-
- 一人ひとりの様々な顔を活かすためには地域の協議会が最適の止まり木
特定な目的をしっかりと持った組織間を人としてつなぎ合う場
Publicの原点は文字通りパブ（西洋居酒屋）わが国なら井戸端・囲炉裏端
 - 公民館を現代の井戸端・囲炉裏端に!

参考とする3市と藤岡

	藤岡市	富岡市	沼田市	渋川市
人口(2020年)	65,117	48,276	47,381	76,853
世帯あたり人口(2020年)	2.65	2.64	2.52	2.67
年人口減少率(2010-2015国調)	0.69	0.89	1.01	1.19
年人口減少率(2018-2019)	0.87	1.30	1.64	1.27
外国籍市民比率(2020年)	1.33	1.66	1.29	1.04
産業構造(1次:2次:3次)	5:36:59	7:40:53	12:25:63	7:28:65
財政力指数(2020年)	0.67	0.65	0.52	0.60
経常収支比率(2020年)	97.8	91.4	97.2	96.5
市民1人あたり歳出額(万円)	40	50	50	46
市民1人あたり基金残高(万円)	8	34	9	13
市民1人あたり公債残高(万円)	32	17	50	46
将来負担比率	4.9	マイナス	85.6	31.9

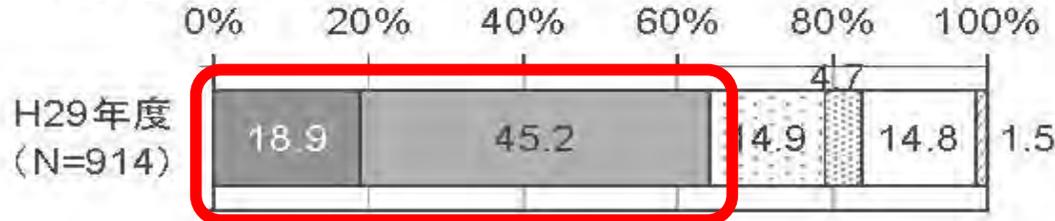
富岡市



市民が感じている愛着・誇り・良さ

市民3人に2人が富岡市に愛着や誇りを感じているが、年々低下

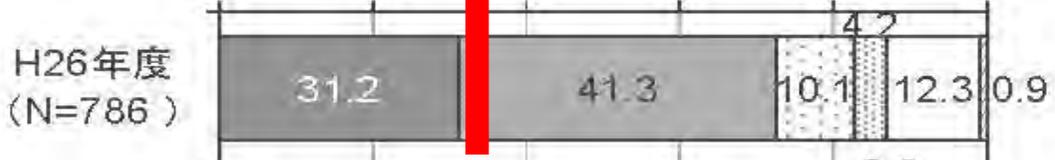
「自分のまちとしての愛着」や「市民としての誇り」をどの程度感じているか



64.1%

「自分のまちとしての愛着」をどの程度感じているか

0% 20% 40% 60% 80% 100%

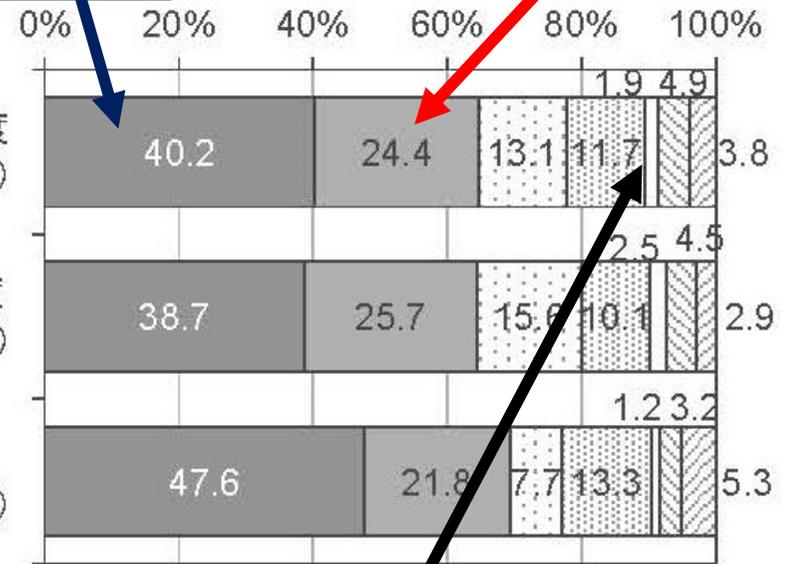


- とても感じている
- あまり感じていない
- どちらともいえない
- やや感じている
- 感じていない
- 無回答

市民が富岡の良さと感じているのは「豊かな自然環境」「快適な居住環境」

豊かな自然環境

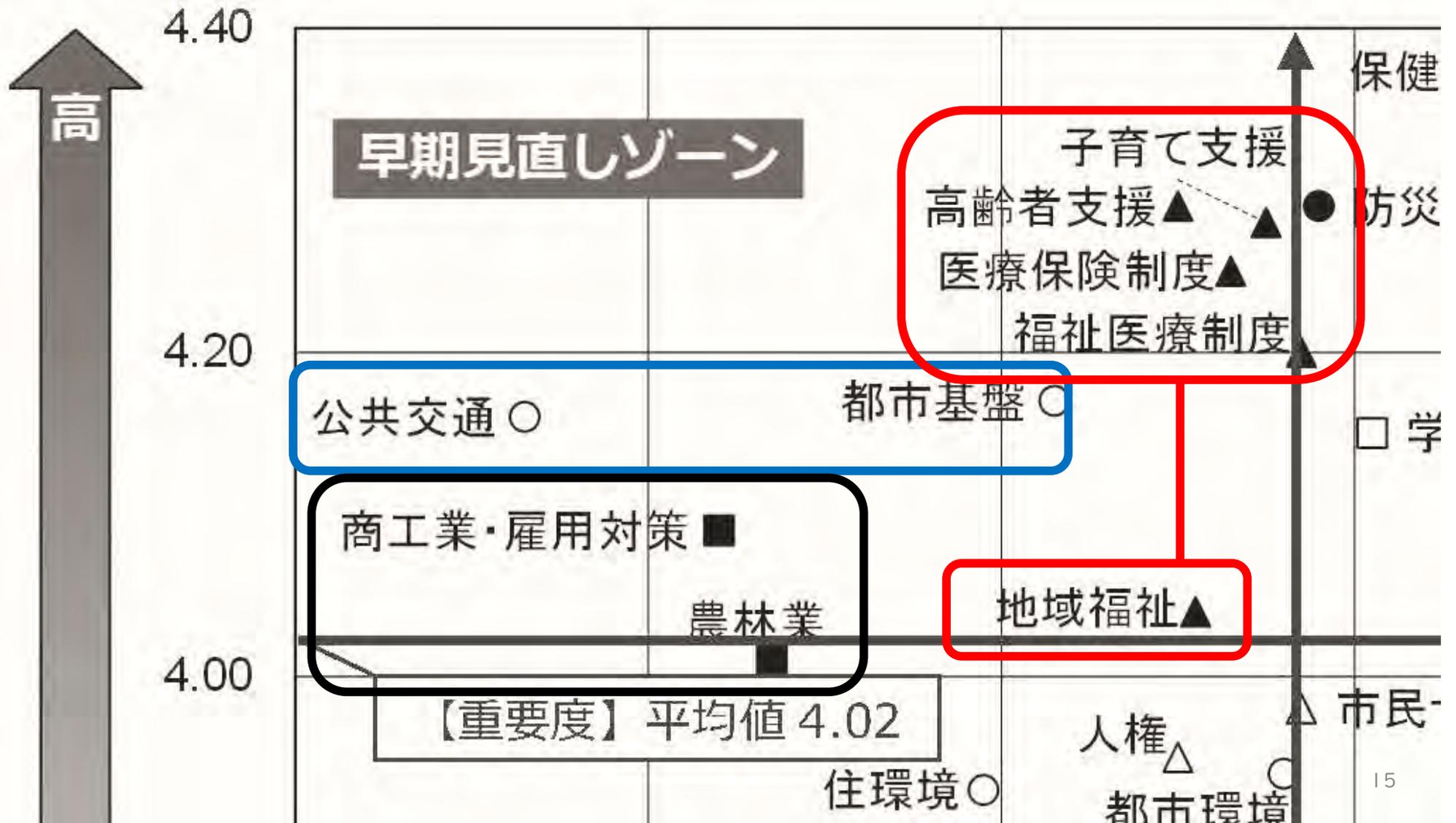
快適な居住環境



- 豊かな自然環境
- 快適な居住環境
- 歴史・文化・伝統
- 隣近所との付き合い
- 特色ある地域産業
- その他
- 無回答

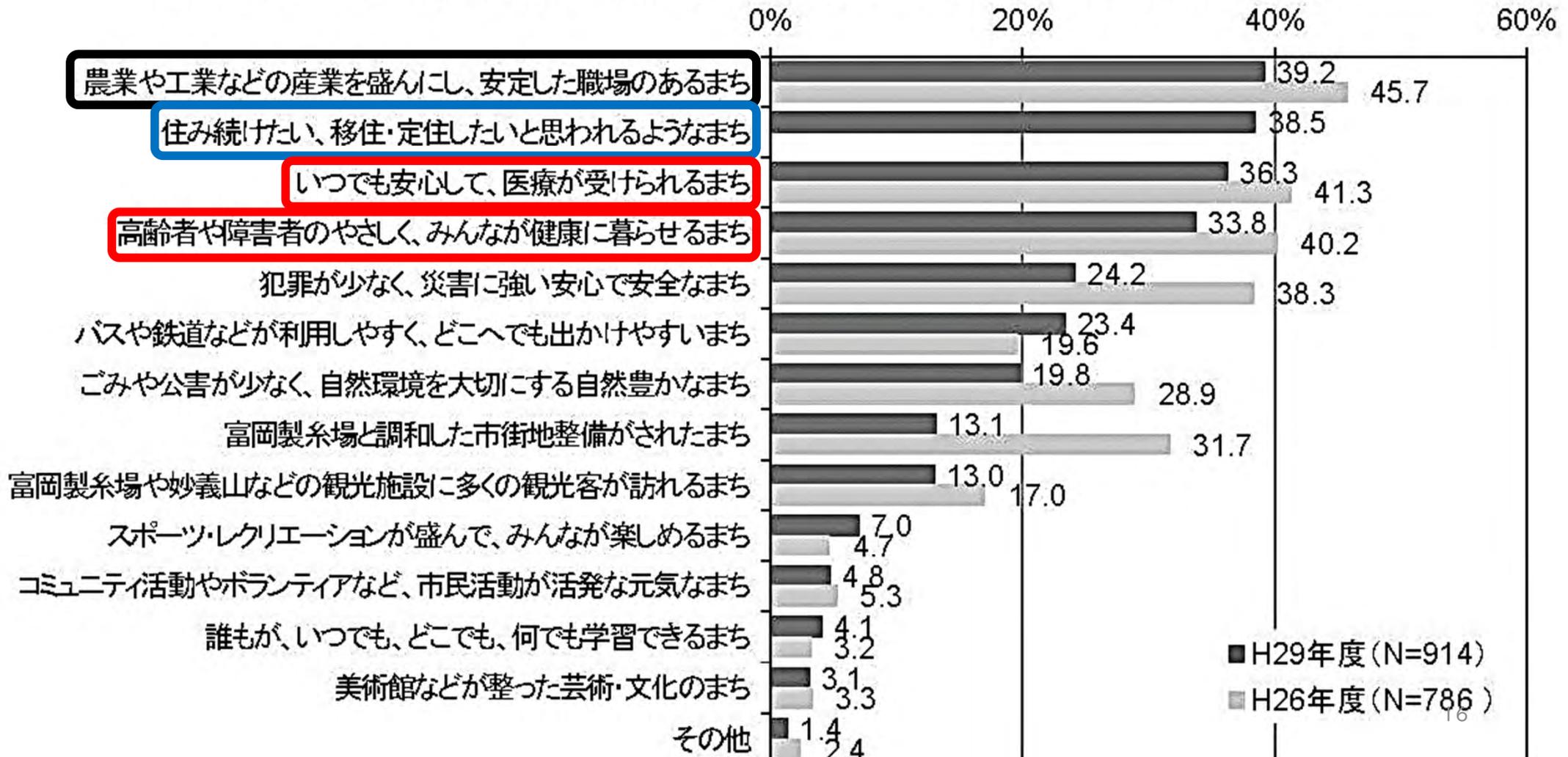
特色ある地域産業

市民による評価



市民が求める方向

■ 「産業・職場」「移住・定住」「医療」「健康福祉」の4項目が高い



富岡市 基本施策

以上の数値や評価から富岡市は2019年4月「行政経営改革プラン」をまとめました。
基本施策は次の4点です。

1. 人口減少・将来負担の軽減～あらゆる地域資源を活かす～
具体的施策:「学校教育の推進」「公共交通網の利便性向上」「健康づくりの推進」
「公共施設等の統合管理」など。
2. マネジメントの強化～変化に挑戦する自治体経営をめざす～
将来負担率に見られるように一定の成果がありますが、懸念材料も。
3. 稼ぐ力の強化～「富岡ブランド」を活用したシティプロモーションを進める～
先に見たPR映画なども例ですが、なかなか成果が見られないのも事実です。地域政策論なら学生のアイデアや参加が一番欲しい所です。
4. 市民協働の推進～持続可能な地域づくりを進める～
公民館を拠点として11の地域づくり協議会などが富岡らしい協働の姿です。
総合計画に明確に位置づけられています。

富岡市における協働の地域づくり

1. 市民の暮らしの基盤である地域を維持するための“協働の地域づくり”
→ 11地区（小学校区≒公民館区）に地域づくり協議会設置（2013・14年度）
2. “協働の地域づくり”を掲げる総合計画策定（2015・16年度）
第2次総合計画前期基本計画に「地域まちづくり計画」を位置づけ地区別座談会
公民館機能の充実を謳う「元気な地域づくり推進市民委員会」提言
3. 各地区での住民アンケートとカルテの作成（2019年度）
→ 2020年度各地区座談会
4. 2021年度～
生涯学習・地域づくり・地域防災・地域福祉の複合拠点としての公民館機能強化
公民館の所管替え（教育委員会から市長部局へ←第9次地方分権一括法）
各地区円卓会議発足（地域の多様な意見を出し合い集約する場）
地区住民による地域まちづくり計画改定（総合計画後期計画に掲載）

富岡市11地区のまちづくり(『第2次富岡市総合計画』地域別計画より 2018年現在:配布資料参照)

	人口	世帯数	まちづくりの将来像	まちづくりの基本方針
七日市 黒川	6,330	2,743	一人ひとりが生きがいをもち、 支え合い 人のつながりを大切 にする地域づくり	地域を担う後継者育成/次代を担う子どもたちの育成 住みやすく、安全な地域づくの/地域の伝統文化の保存と継承
富岡	7,515	3,282	互いに助け合い 心の通い合う みんなに優しい地域づくり	スポーツの振興/青少年健全育成の推進/文化芸能の振興/ 交通安全・防犯・防災の推進/地域環境美化の推進/ 高齢者支援の推進
東富岡	3,944	1,480	広げよう 健康づくり・人づくり -4つの地域が手を取り合って、 支え合う東富岡	文化・スポーツに親しみ、心豊かになる地域づくり/ みんなで参加、安全・安心な地域づくり/ みんなで支え合い、やさしく見守る地域づくり
黒岩	1,689	656	後世に誇れる黒岩を目指して	共に支え合う地域の輪を広め 安心して暮らせる地域づくり/ 自然を大切に、美しい環境の中で暮らせる地域づくり/ 元気に働き、活動できる健康長寿の地域づくり/心身ともに豊か に暮らせる地域づくり/ 「住みよい 住みたい 住んでいて良かった」と考える地域づくり
一ノ宮	6,832	2,881 ?	歴史の薫り漂うまち 一ノ宮 -みんなが力を合わせて、住み よい一ノ宮地域づくり-	スポーツ・文化芸能振興の地域づくり/青少年を健全に育成する 地域づくり/地域の環境に優しい地域づくり/ みんなが支え合う地域づくり/住民参加の地域づくり
高瀬	7,742	2,881	手をつなぎ合い とともに支え合 う みんな幸せな地域づくり	健康で活力ある地域づくり/文化の薫る魅力ある地域づくり/ 支え合い、助け合う、人にやさしい地域づくり/安心して安全に暮 らせる地域づくり/生活と自然が調和する地域づくり 19

	人口	世帯数	まちづくりの将来像	まちづくりの基本方針
額部	3,029	1,146	いこいとうるおいのある里 NUKABE-自立 絆 相互扶助-	安全パトロール事業／地域ふれあい事業／地域掘り起こし事業 ／青少年健全育成事業／高齢者支援事業／地域広報事業
小野	3,498	1,323	自助・共助・公助の精神と理解の もと互いに手を携え 支え合い 安心して暮らせる 元気いっぱいの小野	みんなが心豊かに暮らせる地域づくり／ みんなで守る安全・安心な地域づくり／ みんなで支え合う地域づくり／みんなが元気いっぱいの地域づくり ／みんなの生活にやさしい地域づくり
吉田	2,905	1,155	みんなで決める 地域づくり 目指そう 活力ある元気な よしだ	安心して暮らせる環境にやさしい地域づくり／にぎわいと活力ある地域 づくり／人々の心がふれあう地域づくり／心豊かな地域づくり／ 地域の活力が芽生える地域づくり／安全・安心な地域づくり
丹生	1,809	724	共にてを取り合い 私たちがつく る 大好きな ふるさと丹生	安全・安心なまちづくり／健全な青少年が育つまちづくり／ スポーツ・文化振興のまちづくり／相互に支え合うまちづくり／ 美しく潤いのあるまちづくり
高田	2,201	843	自然に優しく 互いに助け合い 健康で明るく 活気に満ちた 住民主役の地域づくり	地域のスポーツを楽しみ、健康で笑顔あふれる地域づくり／ 地域で支え合い、高齢者に安心な地域づくり／ 地域のみんなで見守る、子どもの安全・安心な地域づくり／ 地域に伝わる芸能や文化にふれあい、保存と継承に取り組地域づ くり／地域を越えて、世代間交流で絆を結ぶ地域づくり／ 地域で一体となって取り組む、環境に優しい地域づくり
妙義	1,780	777	地域資産の妙義山を活かし 互 いに支え助け合い 健康で明るく 活気にあふれた 住民主役の地 域づくり	地域のスポーツを楽しみ、明るく元気あふれる地域づくり／ 地域で守る、子どもの安全・安心な地域づくり／ 地域に伝わる行事や芸能にふれあう、心豊かな地域づくり／ 地域で支え合う、高齢者をいたわり見守る地域づくり 地域や世代を越えた交流で、絆を結ぶ地域づくり／ 地域資源を活かした、環境に優しい地域づくり

これまでの地域づくり活動

平成30年度 市民アンケート調査結果
地域づくり協議会役員、一般の方向け 一般回答者数516件

① 地域を取り巻く課題

各地域ならではの様々な課題を抱えており、益々複雑多様化
一律な行政サービスでは解決することが困難

- 地域役員の負担増・担い手不足
- 増加する自然災害への備え
- 高齢の方・障がいを持つ方のケア
- 少子化による子供の通学への不安 ...



住み慣れた地域で安心して暮らし続ける
将来の地域の担い手を育て引き継ぐ

② 地域づくり協議会活動 (H25~)

公民館単位の地域で活動する各種団体の力を結集！
複雑化する地域課題の解決を図ると共に、地域の魅力を創出

- 各種団体の統合で負担軽減
- 地域独自の防災計画、地域避難所運営の仕組みづくり
- 高齢者の見守り活動、ふれあいカフェ運営
- 子供の通学見守り活動 ...



③ 地域づくり活動を通じて浮かび上がった課題

地域づくり活動が軌道に乗ってきた！
一方で、難しい課題も...

- 地域づくり活動役員の担い手不足
- 地域づくり協議会の認知度が高まっていない
- 中心メンバーの負担が大きく、活動が大変
- 地域で暮らす人のニーズを拾いきれない

市民アンケート結果 (役員向け)

- 地域づくり協議会が始まって良くなったこと
特になし ... 8.9%
住民・団体間の交流・連携・協力強化 ... 39%
- 地域づくり協議会が始まって悪くなったこと
特になし ... 41% 役員の負担増加 ... 34%
- 自分の地区の地域づくり協議会について感じていること
一部の人のみの活動となっている 47.8%
活動の人手が足りない ... 41.6%
新たな移住者が関わりにくい ... 36.5%
慣習や前例にとらわれている ... 36.5%
若い世代が意見を言いにくい ... 32%
地域づくり協議会発足後の地域活動
活性化したと思う ... 47.2%
活性化したと思わない ... 12.9%
- 今後も地域づくり協議会活動に補助金などの活動支援は必要か
継続支援が必要 ... 87.6%

市民アンケート結果 (一般向け)

- 地域づくり協議会認知度 ... 33.7%
- 市民協働・地域づくり活動 行うのがよい ... 84.7%
- 災害発生時に助け合う体制づくりや訓練 必要だと思う ... 91.3%
- 地域活動にどの程度関与したい？
積極的に関わりたい ... 6.2%
無理のない範囲で関わりたい ... 61.8%
- 今後どのようなことで地域住民が協力し合うことが必要？ (トップ3)
困ったときに助け合える関係づくり ... 60.3%
災害に備えた助け合いの体制作りや訓練 ... 57.2%
子供の見守りや居場所づくり ... 51.9%

今後の地域づくり活動の推進

地域で起きていることの自分ごと化 地域活動の輪を益々広げる

地域のサポートに取り組みます！

① 公民館機能の充実

今年度から、公民館の管理運営権限が教育委員会から市長部局へ移管され、地域づくり課が所管となりました。

- 社会教育・生涯学習の場だけでなく、地域福祉、地域防災などの「**地域づくりの複合拠点**」としての機能強化を進めます。

② 円卓会議

地域の役員さんだけでなく、幅広い年代・所属の方が集い、地域で起きている様々な課題について対話する場を公民館に設置します。

- 対話による「地域づくり」を進めるため、**より多くの皆さんから、地域の声を引き出します。**
潜在的な地域ニーズを把握することができます。
- 市では、議論や意見が活発に行えるようサポートしていきます。
(座長館長、ファシリテーター)
- 議論結果を地域活動団体や行政にフィードバックし、より良い地域活動につなげます。

③ 協働条例・行動指針の策定

持続可能な地域づくりを推進していくために、市民の意見を行政の行動に反映させるルールとして「**条例**」・「**行動指針**」を策定します。

地域住民の思いを吸い上げ

対話を通じた改善提案

地域の**あるべき姿**を議論し合う



地域住民の**生の声**を反映した
地域経営の推進

「**富岡市版 市民自治**」の確立

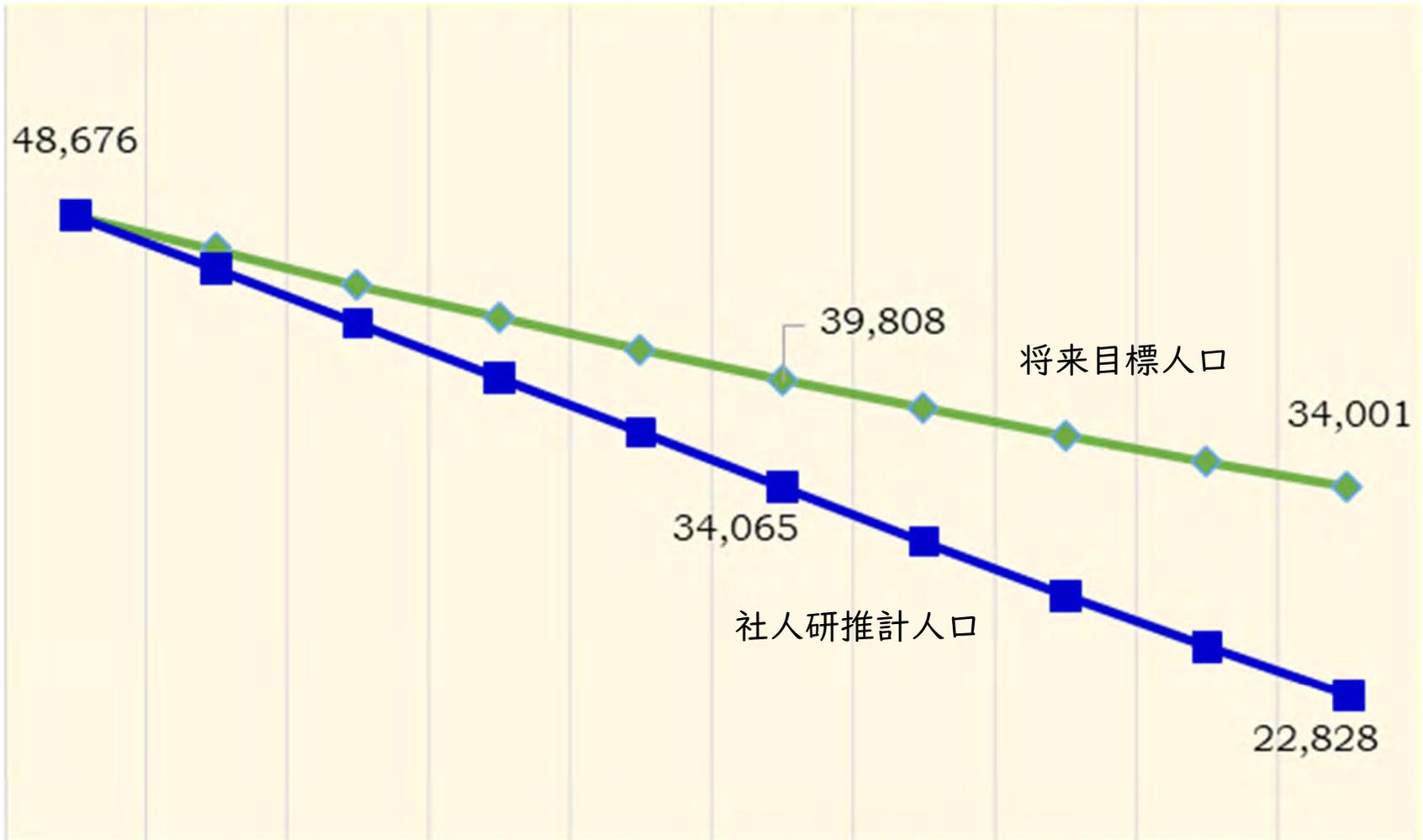


沼田市



【沼田市の人口将来展望】

(人)
60,000
55,000
50,000
45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000



平成27 令和2 令和7 令和12 令和17 令和22 令和27 令和32 令和37 令和42
(2015) (2020) (2025) (2030) (2035) (2040) (2045) (2050) (2055) (2060)

	沼田	利南	池田	蓮根	川田	白沢	利根	0~14歳	15~64歳	65歳以上	75歳以上	85歳以上
2012	20,847	9,434	2,801	6,700	3,331	3,780	4,378	6,264	30,360	14,647	7,915	2,599
2015	20,523	9,370	2,772	6,630	3,290	3,796	4,301	6,082	29,593	15,004	7,979	2,760
2016	20,323	9,362	2,704	6,551	3,214	3,789	4,197	5,905	28,999	15,236	8,130	2,896
2017	20,072	9,244	2,658	6,504	3,184	3,752	4,076	5,685	28,408	15,397	8,258	3,019
2018	19,779	9,113	2,586	6,429	3,123	3,672	3,926	5,432	27,611	15,585	8,337	3,100
2019	19,465	9,021	2,502	6,320	3,031	3,622	3,907	5,189	26,936	15,743	8,447	3,180
増減	▲1,382 6.63%	▲413 4.38%	▲299 10.67%	▲380 5.67%	▲300 9.01%	▲158 4.18%	▲472 10.76%	▲1,075 17.16%	▲3,424 11.28%	1096 7.48%	532 6.72%	581 22.35%
推計 2020	45,815(2015年を100とした場合94.1%)							5,069 12.1%	25,266 55.1%	15,480 33.8%	8,138	
推計 2025	42,863(2015年を100とした場合88.1%)							4,428 11.1%	22,945 53.5%	15,490 36.1%	8,829	
推計 2030	39,948(2015年を100とした場合82.1%)							3,931 9.8%	20,899 52.3%	15,118 37.8%	9,249	
推計 2035	37,026(2015年を100とした場合76.1%)							3,474 9.4%	18,847 50.9%	14,705 39.7%	9,235	
推計 2040	34,068(2015年を100とした場合70.0%)							3,125 9.2%	16,421 48.2%	14,522 48.2%	8,853	
推計 2045	31,112(2015年を100とした場合63.9%)							2,802 9.0%	15,540 46.7%	13,770 44.3%	8,436	

第2期 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

基本目標

1

「稼ぐ地域をつくり、
安定した雇用を創出する」

<数値目標>

一人当たり市民所得 3,000千円



基本目標

2

「つながりを築き、
新しい人の流れをつくる」

<数値目標>

転入者25人増加、転出者25人減少



施策1-1 地域の特性をいかした産業の振興

- ①シティプロモーション事業による地域産業の魅力発信
- ②林業、木材・木製品製造業の振興
- ③農産物ブランド化・6次産業化の推進
- ④農業後継者・新規就農者の確保・育成
- ⑤地域を担う企業の支援

施策1-2 持続可能な産業構造の構築

- ①創業支援
- ②新事業・新産業と雇用を生み出す地域イノベーションの推進

施策1-3 人材育成・雇用マッチングの推進

- ①地域企業での新卒・若年層及び女性の雇用マッチング
- ②業界と連携した技術者育成支援

施策2-1 移住・定住の促進

- ①移住促進のための受入れ窓口機能及び人材の充実強化
- ②トライアルハウス（お試し住宅）の設置による移住促進
- ③企業の地方拠点、サテライトオフィスの誘致
- ④奨学金給付による若者の定住促進

施策2-2 関係人口の創出・拡大

- ①地域課題と関係人口のマッチング機能の強化
- ②準市民との結びつきの強化

第2期 沼田市まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

基本目標

3

「結婚・出産・子育ての
希望をかなえる」

<数値目標>

合計特殊出生率 1.5人



施策3-1 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- ①結婚支援
- ②小児科医や産婦人科医の確保と安定した周産期医療・小児医療の提供
- ③妊娠・出産・子育て情報交換の場・仕組みづくり
- ④不妊治療、不育症治療の助成
- ⑤子どもの遊び場の充実
- ⑥子育て世代包括支援センターの充実
- ⑦子ども・子育て支援の充実
- ⑧出産・子育て時の経済的負担の軽減と多子世帯の支援

施策3-2 仕事と生活の調和

- ①職場における出産・子育て環境の整備

施策3-3 教育環境の充実

- ①幼・小中高校教育における家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の実施

基本目標

4

「ひとが集い、安心して
暮らせる魅力的な地域をつくる」

<数値目標>

定住自立圏における連携事業(取組)数 27項目



施策4-1 市街地における活力ある経済・生活圏の形成

- ①中心市街地の再生
- ②テラス沼田の利活用

施策4-2 人口減少等を踏まえた効率的な資産戦略

- ①インフラの戦略的な維持管理・更新等の推進
- ②空き家対策の推進
- ③地域自治組織の設置
- ④まちのまとまりの形成

施策4-3 地域資源を活かしたまちづくりの推進

- ①観光受入れ窓口体制の強化
- ②観光産業人材育成
- ③観光まちづくりの推進
- ④地域間連携によるインバウンド推進
- ⑤地域の歴史・街並み・文化・芸術等による地域活性化
- ⑥スポーツ・健康づくりによる地域活性化

施策4-4 地域の特性に応じた拠点の形成と交通ネットワークの充実

- ①公共交通の充実
- ②地域防災力の充実・強化

3 提言（改善策）

提言に当たっては、2015年に国連サミットにおいて採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」の視点を取り入れ、提言がSDGsのさまざまな目標と結びついていることを示しています。地域コミュニティの再構築は、公共私連携を促進させ、年齢や性別、国籍、所得、障害の有無などにかかわらず誰もがが必要なサービスを受けられる社会、「誰一人取り残さない社会」の実現に結びつくものとなります。

(1) 地域コミュニティの再構築と拠点づくり

関連するSDGs



① 地域自治への積極的な参加機会の創出

・地域の人たちが、自分たちでできることを増やし、生きがいづくりにつながる仕組みを創造する。

【委員提案例】

ア 住民が地区公民館を運営する仕組みをつくることで、住民のアイデアや工夫を捉えて地域を活性化していく中で、皆が地域づくりに参加できる機会が増え、地域の良いところも継承していく。

イ 地域で積極的にまちづくり活動を行うプレイヤーを育てる講演会や勉強会などの仕組みを作る。

ウ 今、沼田市に住んでいる人たちに焦点を当て、その人たちが生きがいを持って生活できるまち、ここに住んでいる人たちが幸せだと感じられるまちになれば明るい将来が見えてくる。

② 地域課題の共有化

・地域の問題を住民が考え、解決していくシステムを構築する。

【委員提案例】

ア 人口が減少して農地が原野に戻ると鳥獣害が増加し、熊やイノシシが住宅地にまで出現するようになる。若い人が残らなければ集落での生活が困難になり、集落に住めなくなる、あるいは集落が消滅する。これからどうするかを皆で考えていくべきである。

イ 地域活性化のために活動していくには、人々が集まって、経験を話しあい、意見交換をする場が必要である。交流の場を作るべき。

③ 地域自治への行政支援、行政との協働

・地域の特性に応じた行政の支援と協働による自治を推進する。

【委員提案例】

ア 自立的な地域づくりを住民が自覚して取り組んでいく必要がある。これにより住民自らが地域をつくり、足りない部分は行政との協働により、取組を発展させていく。

イ 地域活性化を地域主導で進めたいが、行政にはそれに対してサポート体制（財政支援、人的支援、情報提供など）を築いてもらいたい。

④ 世代を超えたコミュニティの構築

・子どもたちの地域社会への参加意識を高めるとともに、子育てを地域でいう気運を育む。

【委員提案例】

ア 年齢や世代の壁をなくしたコミュニティを作っていくことが必要。人形芝居や歴史の会にも、小中学生が参加しており、職業や世代はほとんど関係ない。子どもたちも年齢に関係なく親しくしている。

イ さまざまなコミュニティの中で、子どもたちも年齢に関係なく、力を発揮してくれれば良いと思う。大人の固まった意見だけではなく、子どもの柔軟な意見を取り込んでいくことも大切になってくると思う。

ウ 薄根地区に「やさいの杜」という直売所があるが、イートインスペースや勉強ができ、子どもが集まれる場所がある。そういった場所があると良いと思う。

⑤ 地域文化の継承

・地域に伝わる文化は、地域の人々が後世に伝えていく。

【委員提案例】

ア 「薄根地区かるた」のように地域限定のカルタを作ることで、子どもたちは自分たちが住んでいる地域に自信を持ち、喜びを感じられるようになる。

イ 子どもたちに日本舞踊を教えているが、毎年20名から30名程が参加している。今の時代はさまざまなことにお金がかかるので、お金をかけなくても浴衣1枚、扇子1本あれば学べるように指導をしている。参加しやすい環境を整えることが必要。

ウ 文化の継承者として、高齢者が活躍できる拠点が必要。

2021年3月沼田市市民構想会議提案
(配布資料参照)

⑥ スポーツによる健康増進、生きがいづくり

- ・スポーツに親しみ、誰もが爽やかに汗をかき、健康な日々生きがいを感じ、元気に暮らせる環境を整備する。

【委員提案例】

- ア 身体を動かすことで、健康づくりや生きがいづくりにつながる。
- イ 健康づくりにおいても、安全に配慮したより専門的な指導が求められており、スポーツの競技力向上においても専門的な指導者の育成が重要となる。

⑦ 地域の拠点整備

- ・地域の自主性・自立性を尊重しつつ、地域の多様性や特性をいかした地域振興を図るため、地域と行政との連携や必要な支援を行う。また、多様な活動の場としての拠点施設を整備する。

【委員提案例】

- ア 白沢町高平では引越してきた人も比較的馴染みやすく、地域のお祭りにも参加している。新しく来た人には、まず、お祭りの役員をしてもらうなど、地域に馴染んでもらうようにしている。参加しやすく工夫することで状況の改善を促す。
- イ 各地区にある公民館を利用して人が集まる場所を作ることが大事。そこで、地域住民が生き生きと活動することにより、地域の交流を活性化させ、それを見た若い人や市外の人にも魅力が伝わり移住促進にもつながる。
- ウ 高齢化が進み、役員の選出や町内行事への参加が難しくなり、地域での共同作業が困難な地域もある。人口減少が進み、地域コミュニティが衰退しつつある中で、地域の核となる拠点を作っていく必要がある。
- エ 沼田は中山間地域のため、農産物の価格では平地に勝てない。消費者に生産地まで来てもらい、農業に触れて理解してもらう活動をしている。農業の後継者を生産者任せにせず、地域全体で考えないと地域の生活環境が維持できず、そのような地域に若者は残らない。都会から農業をしたいと地方の古民家に住む人もかなりいるため、対応次第で地域を活性化する資源となる。地域は市からの請負型から参加型へ変換し、主体的にかかわっていくことにより、満足度を上げていく必要がある。地域のプラットフォームとしての役割を果たす場所が必要であり、地区公民館をコミュニティセンターとして、地域をサポートし、市民協働として働きかけていく拠点をすると良い。
- オ BCP（事業継続計画）の一環として、巨大自然災害を想定した、地域の拠点等へテレワーク環境を整備することで、非常時においても多様な機能と働き方を支援する場所として提供することが可能となり、二拠点居住の推進にもつながる。

(2) 少子・高齢化の課題を地域で解決

関連するSDGs



① 地域における生活支援

- ・少子・高齢化の進展による一人暮らし高齢者の増加により、買い物や介護サービスなどの生活支援の充実を図る。

【委員提案例】

- ア 地域にふれあいの場所を設け、元気な高齢者が互助関係で支え合う仕組みを築けると、昔のように地域も元気になる。地域のふれあいの場所として空き家の活用を考える。
- イ 高齢者が車に乗らなくても金融機関を利用できるように、農協では金融移動店舗車を毎週運行しているが、いつまで継続できるのか分からない状況にあるため、手を差し伸べる仕組みを早急に検討する必要がある。
- ウ IT技術を活用し、市の中心とその周辺のコミュニティが画面を通じて、交流できるような発想があっても良い。また、例えば公民館等に設置したパソコンから必要なものを注文できるようにするなど、高齢者が遠方に出かけなくても欲しいものを購入できるような仕組み、発想があっても良い。

② 高齢者の就業等社会参加機会の創出

- ・高齢になっても社会に貢献し、元気で充足感のある生活ができる環境を推進する。

【委員提案例】

- ア 仕事などを通じて生きがいや仲間づくりにより、元気に働ける寿命、健康寿命を延伸することが期待できる。また、若い人の負担も軽減できるため、住みやすいまちづくりにつながる。若者を増やして頼るのではなく、元気になる高齢者が増えれば、高齢化率が高くてもまちは衰退していかない。テラス沼田の会議室を開放して、高校生が学習に利用しているが、そこに退職した教職員などにボランティアとして来てもらうような仕組みを作る。

③ 人口減少への対策と地域の魅力の創出

- ・子どもたちが大学などに進学後、地域に戻り生活できる環境の整備と魅力を創出する。

【委員提案例】

ア 第一に若い人の流出を防げなければ、子どもがたくさん生まれることもない。子どもたちが大学進学後、戻ってくるのは地域での活動にかかわっている場合が多い。

イ 地域の魅力を磨くことで人が訪れ、地域の方は自分たちの地域の魅力に気づき、若い人も誇りをもって地域にとどまる。

④ 地域が一体となって提供するサービスの充実

- ・移住・定住を促進するため、暮らしやすい地域づくり、多様なサービスを提供する地域づくり活動の充実を図る。

【委員提案例】

ア さまざまな事情を抱える子どもたちに、栄養豊かな食事を提供するため、子ども食堂が地域の支え合いにより運営されている。

イ 沼田にはウォーキングに適した環境があり、この地域性を積極的に活用すれば、高齢者の健康寿命を延伸し、生活の質を維持することができる地域として見直される。地域通貨のポイント制度なども活用すると良い。

こうした提言と相呼応して、沼田市は2021年4月、中央公民館を廃止して新市庁舎と同一の建物に「市民活動拠点コミュニティテラス」を設置するとともに、利南・池田・薄根・川田・白沢の各公民館を地区コミュニティセンターに衣替えして市長部局の施設とし、利根支所に併設して利根地区コミュニティセンターを設置しました。富岡市が「公民館」を教育委員会部局から市長部局に移管したのと似ています。

(3) 広報力の向上とまちの持続性

関連するSDGs



① シビックプライドの醸成と広報

- ・地域に住む人が地域を愛し、自信と誇りを持ち、まちづくりを進めていくため、沼田の魅力を内外へ届ける発信力と受信力の向上に努める。

【委員提案例】

ア 沼田市として誇れるものや、既に持っているもの、有るものを活用していく中で沼田の魅力を発信する。

イ まずは市民が沼田の良さを自覚することからできたら良い。個人的には「沼田公園のツツジ」と「沼田の歌」の魅力がまだまだ十分に発信できる。今後、更に広めていきたい。

ウ 沼田に住んでいると当たり前のように野菜や果物を食べているが、外部の人には、とても美味しく驚かれることが多い。自分たちが思っている以上に評価されているので、もっと自信を持って発信していくべきである。

エ 広報の仕方として外に向けてだけではなく、地域住民に向けて、沼田の魅力を伝える。水や空気など沼田には良いところがあるが、沼田が災害に強いと評価されていることを地域の人は知らない。地域の人が沼田の良いところを知ることが一歩。広報力の向上により内と外に発信し、地域の人へ沼田の良さを伝える。

オ 地域の良さをいかした活動を発信し、地域が元気になり地域が好きになる。価値観が一体になり、それが沼田への貢献へとつながる。

カ 各地域には特色があるが、他の地域のことは知らないことが多い。各地域の特色をお互いに把握して、助けあっていければ良い。利根町では、花火大会やお祭りなどの行事を、地域住民が協力し合って40年以上も続けてきた。助け合いの精神を持って協力し合うことで、できることはたくさんあると思う。まずは地域の取組を知りたい。

キ 地域の魅力を広く発信することは、住民のまちへの愛着と誇りにつながる。また、他の地域の優れた点を受信し、まちづくりにいかすことができれば、住民の定住意識も高まり、人口の流出を抑制することができる。

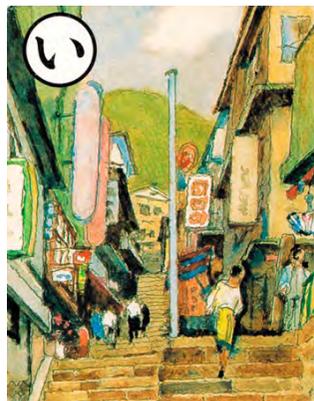
渋川市



旧町村・自治会連合会・公民館・小学校・中学校のおおまかな関係

旧町村	渋川						伊香保	小野上	子持		赤城			北橘	
連合会	渋川						伊香保	小野上	子持		赤城			北橘	
公民館	豊秋	渋川	渋川東部	渋川西部	金島	古巻	伊香保	小野上	子持		赤城			北橘	
小学校	豊秋	渋川南	渋川北	渋川西	金島	古巻	伊香保	小野上	中郷	長尾	津久田	三原田	刀川	橘北	橘
中学校	渋川		渋川北		金島	古巻	伊香保	子持		赤城北	赤城南		北橘		
昭和合併	渋川						伊香保	小野上	子持		赤城			北橘	
明治合併	豊秋	渋川				金島	古巻	伊香保	小野上	白郷井	長尾	敷島	横野	北橘	

上毛かるたから見た渋川



「渋川」を直接読んだ札はありませんが…

「伊香保温泉日本の名湯」

→温泉県ぐんまのシンボル・ゾーンの1つ

観光経済新聞「にっぽんの温泉100選」ベスト50に
群馬の温泉は5か所(こんな都道府県は他にない)

2020年の順位は

1位 草津(2003年から17年間ずっと1位)

13位 伊香保(10位台半ばを維持)

29位 万座・40位 四万・47位 みなかみ18湯

い
い
か
ほ
お
ん
せ
ん
伊香保温泉
にほんのめいとう
日本の名湯



順位	動き	昨年	温泉地	県
1	—	1	草津	群馬
2	—	2	別府八湯	大分
3	↑	6	下呂	岐阜
4	—	4	有馬	兵庫
5	↓	3	指宿	鹿児島
6	↓	5	道後	愛媛
7	↑	9	箱根	神奈川
8	↑	10	城崎	兵庫
9	↓	7	登別	北海道
10	↓	8	由布院	大分
11	—	11	黒川	熊本
12	—	12	和倉	石川
13	—	13	伊香保	群馬
14	↑	16	乳頭温泉郷	秋田
15	↑	17	熱海	静岡
16	↑	18	月岡	新潟
17	↓	14	玉造	島根
18	↑	22	银山	山形
19	—	19	奥飛騨温泉郷	岐阜
20	↓	15	鬼怒川・川治	栃木
21	↑	25	秋保	宮城
22	↑	39	山中	石川
23	↑	26	嬉野	佐賀
24	↑	32	白骨	長野
25	↑	27	鳴子	宮城

上毛かるたから見た渋川

合併により榛名も赤城も利根川も渋川

→ 関係する札の深読みが必要

榛名山：万葉時代の呼ばれ方「伊香保」

→ 火山と暮らしてきた群馬の象徴
(金井遺跡群・黒井峯遺跡)

赤城山：「老農船津伝次平」

「ねぎとこんにやく下仁田名産」を
渋川から読む視点が必要

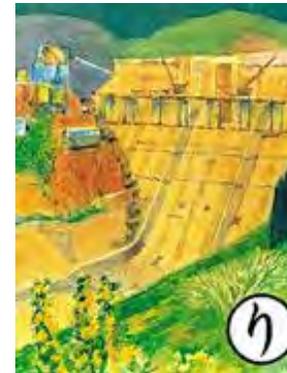
利根川：「利根は坂東一の川」

「理想の電化に電源群馬」

→ 佐久発電所の大いなる意味



の
登る榛名の
キャンプ村



こんにやく

おすすめPOINT!

群 馬県におけるこんにやくいもは、中山間地域における重要な特産物で、収穫量は全国第1位、9割のシェアを誇っています。産地ならではの生芋こんにやくは、スーパーなどで販売されている粉から作ったこんにやくと違い、生芋から「生ズリ」による加工で製造するため、コシや歯切れに独特の味があります。煮物やおでんにした時の味のしみ込みが良いのが特長です。

主な生産地

渋川市 昭和村・安中市
沼田市・東吾妻町・富岡市



生産数量等 (こんにやくいも)

- 収穫量全国順位第1位
 - 全国 57,800 t
 - 群馬県 55,400 t
- [平成23年作物統計]

渋川市の収穫量は
13,800+で日本一
栽培面積850haも日本一

消費者の声

こんにやくは、田楽でもよし、油いためにして、正油、粉末だしで味付けする。さしみこんにやくは、あっさりしていて美味。

夏ねぎも渋川は群馬一(国内19位)



こんにやくの田楽





上毛かるたに読まれなかった渋川

角田柳作 (1877~1964) : ドナルド・キーンの先生

世界における日本学の創始者

上三原田歌舞伎舞台 (1819年開場) ・ 津久田人形芝居に

象徴される農村歌舞伎・人形芝居

渋川郷学:

吉田芝溪 (1752~1811) ~ 堀口藍園 (1818~1891)

自力で・自宅で・自らの方針で

工業集積: 永井長次郎 (上三原田歌舞伎舞台)、

浅野総一郎 (1848~1930、佐久発電所)